

令和6年度 国富町立本庄小学校 学校関係者評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営ビジョン

(たくましく生きる本庄小の子ども) 知・徳・体ともに調和のとれた実践力のある児童の育成 (コンプライアンス意識の徹底) 児童・保護者・地域に信頼される学校づくり

学校の教育目標：豊かな心をもち、たくましく生きる本庄小の子どもの育成

※自己評価は職員・保護者・児童の評価

●は課題・次年度への方策等

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知育	■目標 学力向上と読書活動の推進 (考える子) ■手段・ゴールイメージ 1 基本的な学習習慣の指導と主題研究と関連させた日々の授業改善による学力向上 2 各種関係機関と連携した特別支援体制の充実 3 授業との関連、読書環境の整備及び読み聞かせボランティアと連携した読書活動の推進	1 2 3	○タブレットを常に手元に置くことで、自分が必要ときにスムーズに活用することができるようにした。 ○復習の際に、タブレットでナビマ(AIドリル)を使い、自分の苦手とする学習内容を選び解答することで個別最適な学習が実践できている。 ○主題研究における相互参観授業の設定や中部教育事務所のブラッシュアップサポートを年3回受けて授業改善(5名の職員)に取り組んだ。 ○学校での学習や生活への困り感をもつ児童への関わりを積極的に行い、保護者との相談の上、支援の在り方を関係職員で協議・推進できた。 ○読み聞かせボランティアによる読み聞かせを実施していただいた。(1年生及び休みの希望者) ○多読賞の表彰と校内放送による図書室利用の状況のお知らせを行った。 ●個人での貸出数の差がある。(1月現在：貸出100冊以上48名)	3.1	3.1	● 児童自身の自己評価が高いので、児童書はタブレット等の活用による学習機動できていると推察できるが、それが学力向上に反映されているかどうかは不明である。 ○ タブレット・AIなどの活用で、誰でも学習に興味をもち、身近に感じられるのはいいことだと思います。 ○ 児童のICT使用スキルの向上、授業の効率化に良い効果が出ていると思う。「書く」「手を使う」等、活動の基礎を大事にする小学校では実施すべきことが増え、負担増とならないよう活用されることを期待します。 ○ 参観授業では、学年に応じてタブレットを活用し、学習に取り組む様子が多く見られた。個に応じた支援をされていることで、自ら学ぶが身に付いてくと思う。 ○ 児童の自己評価が高い、日々の学校生活の中で困り感のある児童への関わりが児童の目にもより充実していると考えられる。 ○ 全児童へ寄り添う支援を望みます。 ○ 学級担任だけでなく、複数で関わることを進めてきたのでより進めてほしいです。 ○ 保護者との教育相談は、積極的に関わり合いを望みます。 ● 読み聞かせに関しては、諸々の関係で回数も減り、児童が嫌がられる機会も、残念ながら減り化しているように思われる。 ● タブレット・スマホ等で文字入力になっていると思います。 ○ 読み聞かせボランティアが関わる機会も増えたが継続してほしい。ボランティア側のスキルアップも来年度は意識していきたいです。 ○ 「質に入った本の紹介」という観点で量だけでなく質的な面へのアプローチもあるかと思う。
徳育	■目標 思いやりの心と基本的な生活習慣を身に付けた児童の育成(親切な子) ■手段・ゴールイメージ 1 主題研究と関連させた道徳授業改善 2 地域・家庭と連携した規範意識の醸成及び人権教育の推進(あいさつ、返事、履き物の整頓、マナー) 3 定期的な児童アンケート及び教育相談の実施と各種関係機関と連携した教育相談体制の充実(せんだん会議、いじめ防止方針の徹底、家庭・地域との連携)	1 2 3	○スクールワイドPBSの取組を実践したことで、児童が友達よさを実感することができた。 ○全校的に校内での会釈がよくできていた。 ●友達を思いやる言葉遣いや場に応じた無言の徹底はまだ十分ではない。 ○6月の参観日において、全校一斉の人権教育の授業(道徳科または学級活動)を実施した。 ○6学年児童を中心に、始業前の校庭の清掃を継続して行った。 ○毎月「心のアンケート」及び担任との教育相談を全児童対象に行い、いじめの早期発見に努めた。 ○いじめ不登校対策委員会、各学級の児童の様子を共有した。必要に応じてケース会議を設け、組織対応の方針を確認した。	3.1	3.0	○ 地区内で出会う児童達はよく挨拶を返してくれる。時折、仲良く遊ぶ姿も見受けられる。 ● 思いやりの心、言葉遣いなどについて、先生(大人)が手本となる行動をとってほしいです。 ○ 廊下等で走るときにぬいさつをしてくれる児童は多いと感じます。 ○ 参観授業で人権教育の授業を取り入れることは、保護者の人権教育に対する理解を図る上でもとても良いことだと思う。 ● 体育の危機管理と重なるが、児童が外で遊ぶとき、用水路付近や高さのある土手など児童だけでは危なさを感ずるときもある。自然の中で遊ぶ体験もいっしょしながら危険回避の力も身に付けてほしい。 ○ 普段の授業では教えることができないと思うので、そういう機会をちょくちょくもってほしいです。 ○ 上級生がロールモデルとなり、尊敬される行動をとるといふ活動会でも伝わってきました。 ○ 第6学年を中心とした期の中帯活動は、他学年にも刺激を与えることになると思うので、今後継続してほしい。 ○ 児童の自己評価が高い。学校側の取組が児童の間にも理解され安心できる学校生活につながっていると思われる。 ● 常日頃から子どもたちの様子を気をつけて見てほしいです。(先生も保護者も) ○ いじめの早期発見に努められているとのこと。皆で見守っていることが児童にも大人にも知られているのは良いです。組織的な対応も共有されている安心感につながると思います。 ○ 積極的なケース会議も、関係児童・教員が関心を持ってもらえると、保護者への理解を図るうえで大切かと思う。
体育	■目標 体力・健康づくりの実践と食育及び安全教育の推進(がんばる子) ■手段・ゴールイメージ 1 体力向上プランの年間指導計画への位置付けと振り返り(PDCA) 2 保護者と連携した、保健指導及び食に関する指導の推進 3 危機管理マニュアルの確実な周知と安全指導・安全点検の徹底	1 2 3	○昨年度よりも体力テストの測定結果が改善した。 ○全国平均を下回った項目を全職員で認識し、体育授業での取組例を示し、全学年で取り組み始めている。 ○栄養教諭・町役場・地域の方の指導・支援により全学年が食育の取組を実践できた。 ●健診後の受診勧告を定期的に行い、長期休業における治療を保護者に依頼している。(歯科治療率48.8%) ○これまでの反省を活かし、よりスムーズな引き渡し訓練の実践を行うことができた。今後も保護者との連携を図る。 ○毎月の安全点検を実施し、危険箇所について随時修繕している。	3.2	3.1	○ 児童の自己評価が高い。自分自身の運動と指導による体力の向上が確認できているのは良いかと思える。 ○ 苦手克服を全員で取り組んでいることは素晴らしいと思います。頑張っています。 ○ 競技スポーツよりも体を動かすことそれ自体を知る機会が小学校では求められていると思います。また取組の結果も表れています。 ○ 教科体育と日常的な運動の取組が、体力向上につながっていると思われるので、今後も推奨してほしい。 ○ 児童の自己評価が高い。児童ももしっかり取り組んでいると認識できる充実した指導ができていると思われる。 ○ 家庭での歯磨きの習慣がかなり定着していると思います。 ○ 食物の生産地である国産食育に取り組むことは、地域の良さを知ることでもあり、幸せなことです。 ● 歯科治療が何もない方策・実施がありません。 ● 歯科治療は、保護者への理解が重要だと思うので、早期治療の大切さについて文書や図解等で理解を図ってほしい。 ○ 児童の自己評価が高い。いろいろな訓練に取り組んでいることを実感できると思われる。ただし、登下校時の車への危険回避行動等は、時折いまだとずる場面もあるので、気を抜かず指導し続けることが大事かと思われる。 ● 災害が多くなっているので、徹底的に指導を望みます。 ○ より実用的な訓練が求められるようになってきたので、保護者も児童も、いつの日が必要になった時に行動できる場となることを期待します。 ○ 学校外での行動については、危険箇所点検や地域住民の声を生かすなどとして、登下校時の安全意識を高めてほしい。

次年度の方針性についての校長所見

○中部教育事務所や国富町教育委員会の指導、職員による校外・オンラインによる研修成果を全職員で共有し授業改善を継続する。
 ○運動の日常化につながる体育学習を実践し、保護者とともに健康な生活に向けた取組を実践する。
 ○社会構造の変化に応じた学校行事や教育活動を模索し、さまざまな場でのICTの活用を推進する。

